

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-54C	20-030	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
The characteristics and risk factors of hepatocellular carcinoma in nonalcoholic fatty liver disease without cirrhosis 肝硬変を伴わない非アルコール性脂肪性肝疾患における肝細胞がんの特徴と危険因子		
執筆者		
Tobari M, Hashimoto E, Tani M, Kodama K, Kogiso T, Tokushige K, et al.		
掲載誌		
J Gastroenterol Hepatol. 2020 May;35(5):862-869. DOI: 10.1111/jgh.14867.		
キーワード	PMID	
非アルコール性脂肪性肝疾患、肝細胞がん、危険因子、生存率、再発率	31597206	
要 旨		
目的： 肝硬変を伴わない非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）患者を対象に肝細胞がん（HCC）の特徴を明らかにすることであった。		
方法： 1991～2018年にNAFLDと診断され、組織検査や画像検査で脂肪変性が検出され、アルコール摂取がなく、他の肝疾患を除外した935名の日本人を対象とした。肝硬変は組織学的特徴、画像データ、症状により定義した。肝硬変性に対する非肝硬変性の危険因子および非HCCに対するHCCの危険因子について多項ロジスティック回帰分析を用いてオッズ比(OR)および95%信頼区間(CI)を算出した。		
結果： 非肝硬変性HCCは48例、肝硬変性HCCは71例であった。肝機能因子以外に男性(OR:5.603,95%CI:1.577,19.900)、軽度の飲酒者(OR:2.797,95%CI:1.031,7.589)、および腫瘍の大きさ(OR:1.031,95%CI:1.009,1.055)は、非肝硬変性HCCに対し有意に高いオッズ比を示した。再発率は、非肝硬変性HCC群が肝硬変性HCC群よりも有意に低く、再発の危険因子はdes-γ-carboxy prothrombinの存在とHCCの数であった。非肝硬変性HCC群の生存率は肝硬変性HCC群より有意に良好であった。非肝硬変性NAFLD患者について、HCCを有する群と有さない群で比較したところ、HCCの危険因子は男性(OR:7.774,95%CI:2.176,27.775)、軽度飲酒(OR:4.893,95%CI:1.923-12.449)と高FIB4指数(OR:2.634,95%CI:1.787,3.884)であることが明らかとなった。		
結論： 非肝硬変性NAFLD患者では、HCCの重要な危険因子は、男性、アルコール摂取量、FIB4指数であった。HCCの再発と生存率は腫瘍の病期にのみ影響を受けた。飲酒はHCCの修正可能な危険因子であることを認識すべきである。		